

小松島港
全景

小松島港修築工事概要

内務省神戸土木出張所長

工學博士 高 西 敬 義

小松島港の外港たる小松島灣は大船の出入碇泊に適し天然の良灣を形成すれども、其内港部は僅に神代瀬川河口を利用せるに過ぎざるを以て水浅く海陸聯絡設備を缺き小型船舶にして尙且出入自由ならず、依て徳島縣は明治四十四年度より調査を開始し大正二年度より144,600餘圓を投じ内港部の整理修築に着手し、浚渫、繫船岸壁の築造を施せり。

其後更に大正六年度より十年度に亘り199,400餘圓を以て南北兩突堤を増築し且つ浚渫を遂げ、1,000噸級汽船の出入を自由ならしむるを得たりと雖も、現在内港は其の區域既に狹隘を告げ到底時代の趨勢に順應する能はず加ふるに阿土鐵道完備の曉本港は本州との聯絡上益々重要な地位を占むるに至るべく之れが擴張修築は最も急務とする所なり。

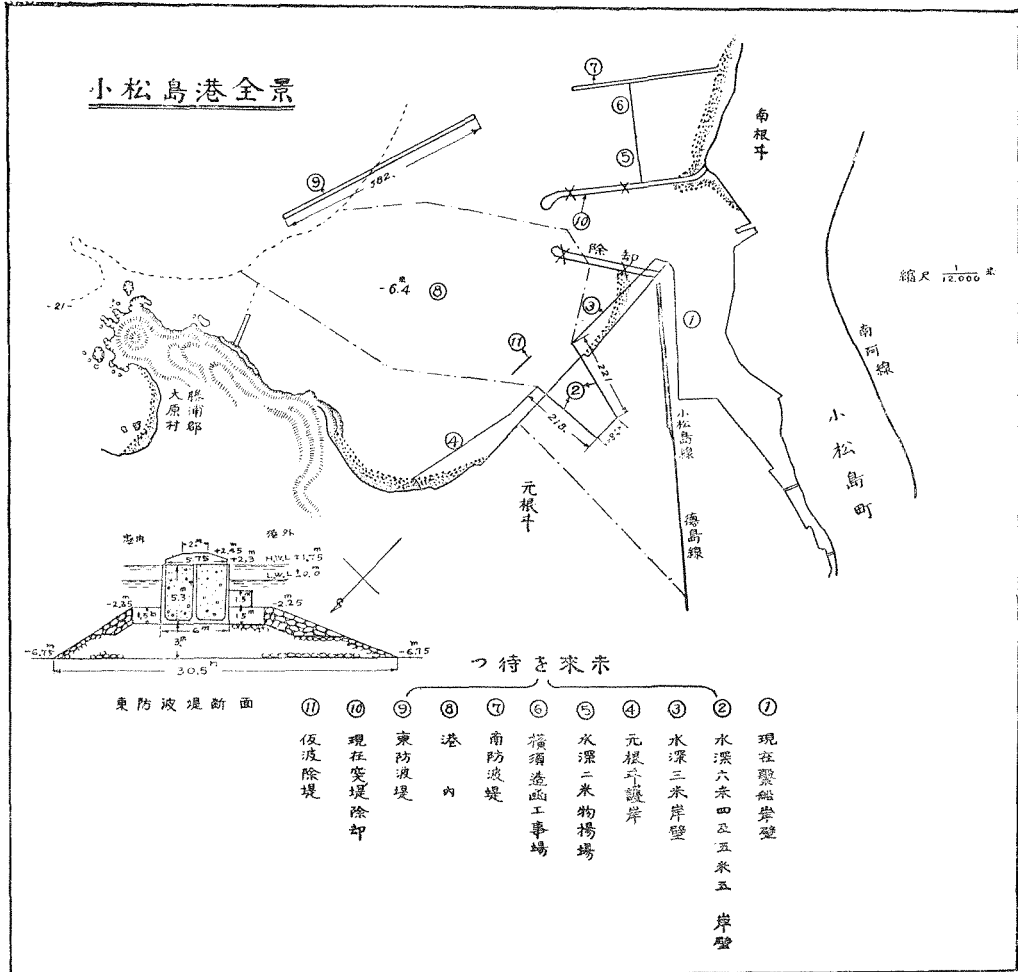
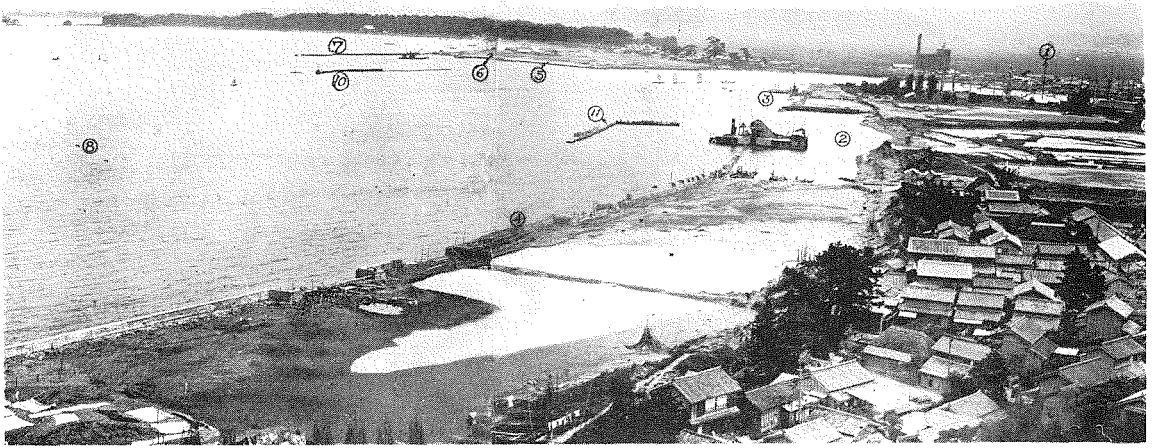
政府亦認むる處あり之れを指定港灣に編入し本港修築工費總額3,202,000圓に對し國庫よ

り其の二分の一を補助し、大正十二年度より昭和五年度に至る八ヶ年繼續事業とすることに決し大正十二年十一月工事に着手するに至れり、而して大正十五年度に至り追加埋立工事費247,500圓の決定(國庫無補助)を見たるも其後財政の都合に依り豫算の節減、施行年度繰延等の必要を認め結局總豫算金3,204,835圓を以て昭和八年度に完成の豫定とせり。

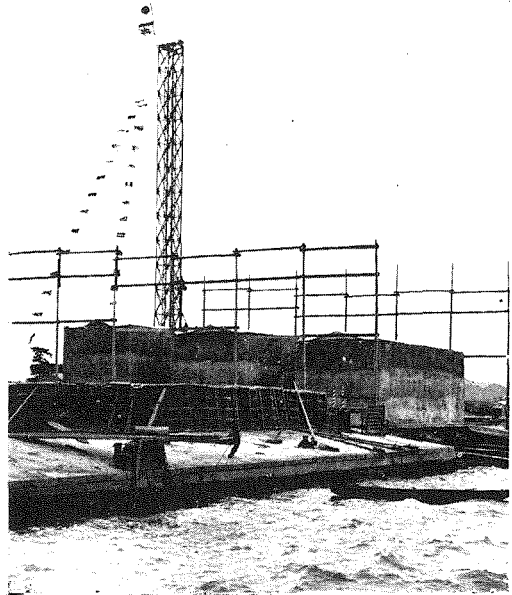
之れが計畫に於ける防波堤内水面積は約876,600平方米にして凹字形岸壁には2,500噸級汽船二艘、1,500噸級汽船二艘を繫留し得せしむるものとす、又港内約396,700平方米は之を干潮面以下6米⁴に浚渫す。

埋立は元根井地先面積約171,000平方米横須地先面積約46,000平方米の埋立を爲すものとす。

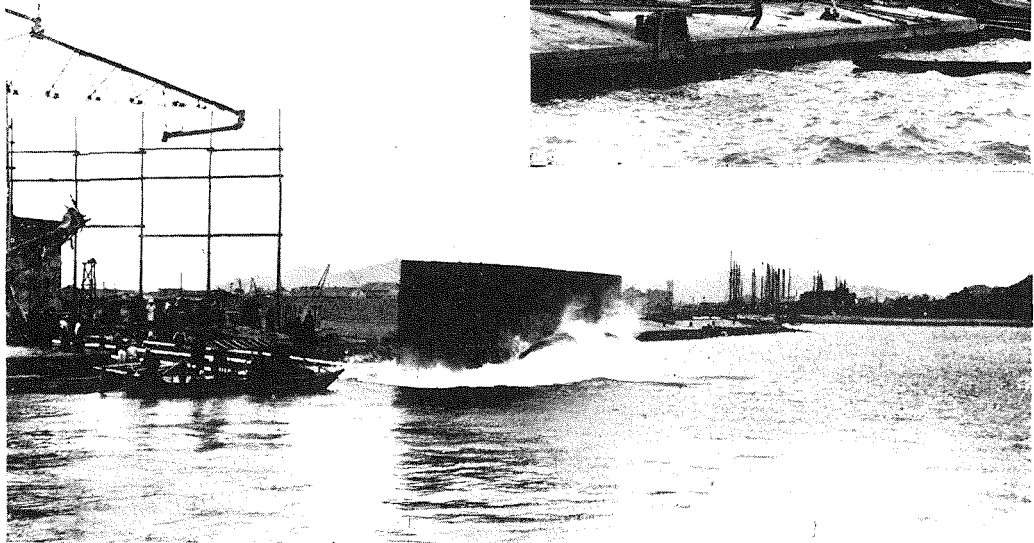
計畫數量は別表の如し。



(2) 進水前に於ける函全景。



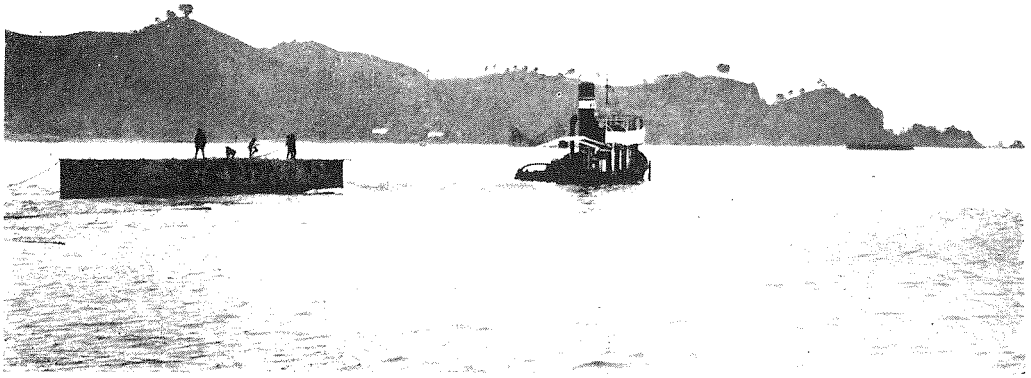
(3) 第四號函進水の刹那。



名稱	細別	數量	物揚場	四字形岸壁内側	數量			
防波堤	東北南 防防計	米	護岸	横須地先	91			
		582			272			
		91			363			
岸壁	6米4岸壁 5米5岸壁 3米計	160	埋立	元根井及港口地先	507			
		833			231			
		256			横須地先	計	738	
		183					海面淺濶土量	立米 704,400
		330						
769	計	同 736,880						
	土量	同 60,600						

昭和四年小松島港輸出入貨物船舶噸數表

	輸出	輸入	計
貨物	128,958噸	129,179噸	258,137噸
	汽船	帆船	計
入港船舶	730,550噸	269,630噸	1,000,180噸



(4) 貳號函曳航
の景。

(5) 東防決堤第
十三號函沈置。

